

現場の事例挙げ 在宅医療考える

四日市でシンポ

在宅医療の在り方を考えるシンポジウムが十二日、四日市市下之宮町のあさけプラザで開かれた。写真。

県内の医師や看護



師、ケアマネジャーらでつくる三重在宅ケア研究会が会員同士の意見交換の場として開催しており、二回目。北勢地域の百人が参加し、医療現場からの事例報告があった。

四日市市内の介護施設で働く作業療法士の刀根奈穂美さんは、認知症患者の在宅介護について報告。通所施設で集団で過ごすことが苦手な人もいた上で、「患者が読書好きなら自宅にある本について話すなど、人それぞれに合ったケアを考え

ることが大切」と話した。
(井口健太)